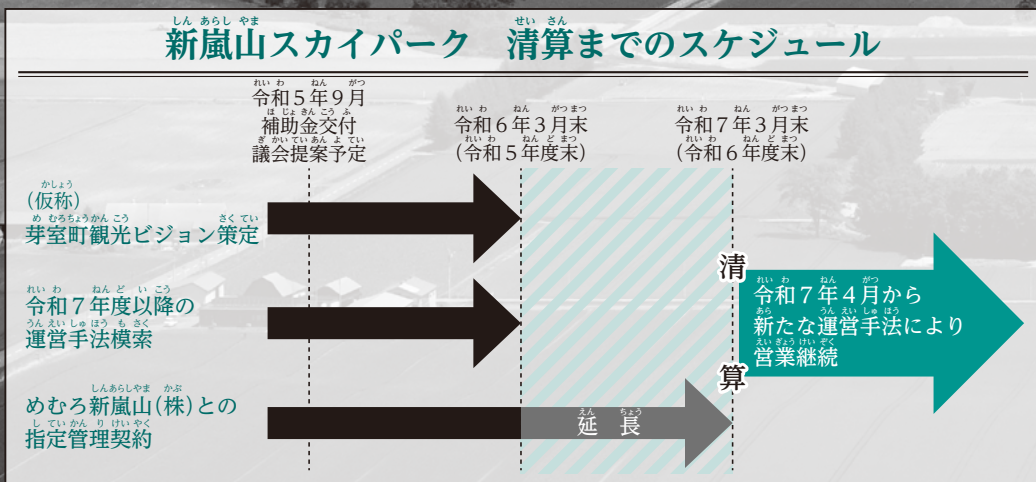


新嵐山スカイパークのこれから



新嵐山はこれからどうなっていく？

令和2年3月、町は、新嵐山活用計画「Rural Inn ザ・スカイパーク」を策定しました。キャンピングエリアの設置、グランピングサイト拡充、レストランのリニューアル、フィールドを活用してのイベント開催など、新たな魅力づくりに向けて取り組んできました。コロナ禍による影響もあり、コロナ前の売り上げには戻っていませんが、新嵐山スカイパークは、継続して営業し、皆様にこれまでどおり利用いただけます。

今後、町は、町民の財産である新嵐山スカイパークを守るため、また、町民にとっても自慢できる、誇ることのできる魅力ある新嵐山スカイパークを目指すため、町全体の観光振興をまとめた観光ビジョンを令和5年度末までに策定するほか、同時期までに、新嵐山スカイパークの運営についての手法を模索し、令和7年度以降、新たな経営体での運営を目指して取り組みを進めていきます。

うのが詳細な経緯です。

清算とは、会社が事業を停止し解散した後、従業員や取引先への支払いや、借入金返済など、所有する資産や負債を処分する手続きを行うことを言います。

町は、債務超過に至った要因が、コロナ禍による売り上げの落ち込みと、コロナ禍前に積算していた町からの委託料の額との乖離にあるとして、令和元年度から3年度までの乖離分を、補助金として交付するため、9月議会に補正予算を提案する予定です。

また、町による指定管理期間を令和7年度末まで延長し、その期間内に清算に向けた作業を進めていこうと考えています。

「三セク」新嵐山「清算へ」

元新聞によつて報道があったのが7月13日のこと。「債務超過が続き、今年度は資金繰りが逼迫、危機的状況」であるため「町民の財産である新嵐山スカイパークを守っていくため、第三セクターであるめむろ新嵐山株式会社を令和7年3月末に清算する」と、12日に開かれた町議会全員協議会で、町が説明したことを受けての報道でした。

債務超過、第三セクター、清算などの普段聞きなれない言葉の意味を解説しながら、新嵐山スカイパークのこれからを特集します。

新嵐山スカイパークを運営する「めむろ新嵐山(株)」は、平成18年から同パークの指定管理を担っています。同社は、芽室町が100%出資して設立した会社で、このように地方公共団体が出資して設立した会社を第三セクターと呼び、第三セクターの役割として、公的な地域課題を解決する事業を実施しながらも、売上を確保していく役割があります。しかし、近年は新型コロナウイルスなどの影響により、特に宿舎部門の宿泊、宴会等で大幅な売上減少が続き、令和4年度は黒字決算だったものの、令和元年度からの3期連続赤字決算が響き、債務超過に至ったものです。

債務超過とは、会社が抱えている未払金や借入金などの負債の総額が、現金や機械、建物など資産の総額を超えている財務状況のことを指し、機械や建物を全て現金化しても、未払金や借入金を払えない状況といえます。

債務超過が続くなかで、今年度は資金繰りが逼迫しており、今の形態、経営状況のままでの継続は限界と判断したことから、町は、同社を清算する方針を固めたとい

え。

債務超過とは、会社が抱えている未払金や借入金などの負債の総額が、現金や機械、建物など資産の総額を超えている財務状況のことを指し、機械や建物を全て現金化しても、未払金や借入金を払えない状況といえます。

債務超過が続くなかで、今年度は資金繰りが逼迫しており、今の形態、経営状況のままでの継続は限界と判断したことから、町は、同社を清算する方針を固めたとい

え。



全国和菓子協会の

「選・和菓子職 伝統和菓子職」に認定

お菓子のまさおか

会長
まさおか
正岡

のりゆき
宣征さん



「お菓子のまさおか」は大正6年(1917年)創業の老舗店。東京都で行われた認定授賞式には奥様と共に出席されたそうです。写真中央が宣征さん。左は4代目代表の崇さん。

伝統和菓子職の認定は、全国一律で技術の評価を権威を持って技術の水準を認定すること、優れた伝統的技術を持つ者を認定することを通じて、技術の振興と発展に役立てることを目的に2年に一度選考が行われ、今年度は全国から12人しか選ばれていない、大変栄誉ある認定です。

認定は「自身が引き締まる思い」と恐縮しながらも「長年の頑張り」が評価されて光栄。小豆や砂糖など、大地のめぐみが豊富な十勝でこれからも美味しいお菓子を気持ちを入れて作っていきたいと話された正岡さん。この度は認定おめでとうございました。

危険業務従事者叙勲を受章

叙勲(じょくくん)とは…70歳以上か、所定の条件に該当する55歳以上で、国家や公共事業、社会に功労のあった方などが対象となります。今回千田さんが受章したのは、「瑞宝章(ずいほうしょう)」で、公務などに長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与される勲章です。

千田さんは昭和44年から平成19年までの38年間の長きにわたり、芽室消防署に奉職されました。職中、建物火災の発生時に的確な放水活動で延焼拡大を防いだり、心肺停止状態であった傷病者に対し迅速な心肺蘇生を実施するなど、冷静沈着な行動力と判断力を遺憾なく発揮されました。

また、予防査察・防火講習会・防火広報といった予防に関する活動や、広報車の更新作業にも尽力されま

受章に際しては「身に余る光栄に感謝しております。消防は国民の生命・身体・財産を守ることが使命と考え、職務にあたってきました」とコメント。

「在職中の活動については、大火や水害を経験しており、一致協力して町民の安心・安全を守ることに力を合わせて頑張ってきました」と振り返りました。

千田さん、この度は受賞おめでとうございました。

瑞宝単光章(消防功労)受章

千田 邦彦さん



昭和21年生まれ、元 北海道西十勝消防組合消防司令補。趣味は釣り、囲碁。囲碁はアマチュア6段の腕前だそうです。